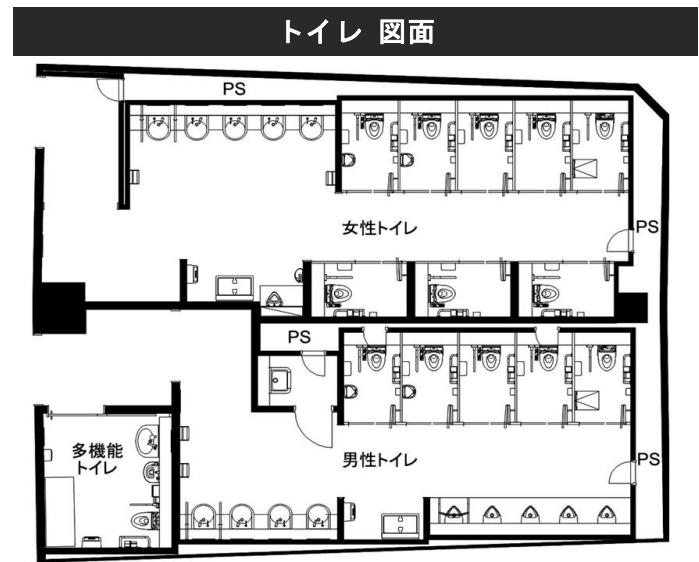


# 新千歳空港国内線旅客ターミナルビル（搭乗待合室）

TOTO



北海道の玄関口である新千歳空港。国内線と国際線を合わせた旅客数は2000万人を超える。



間接照明が利用者をあたたかく迎える洗面空間。洗面器のあふれ面高さは、車いす使用者の使いやすさにも配慮して750mmに設定している。



大便器ブースの扉にはトイレの設備がひと目でわかるサインを表示。



小便器は床の清掃性や節水性に優れた壁掛式の自動洗浄小便器を採用。1ヶ所には手すりを設置している。



高齢者、障がい者の使いやすさに配慮して、すべての大便器ブースにL型手すりとはねあげ手すりを設置している。ブースサイズは大きな荷物を持ち込みやすいように、幅1200mm × 奥行き2000mmを確保している。



白を基調に赤い扉がアクセントを加えている明るく清潔感のあるトイレ空間。お子様連れ利用者への配慮として、ベビーシート、幼児用小便器、あふれ面高さの低い手洗器を設置している。



トイレの使い方ラベルは、増加傾向にある外国人利用者に配慮して、日本語、英語、中国語(簡・繁)、韓国語の4ヶ国5言語で表示している。

建築概要	
名 称	新千歳空港国内線旅客ターミナルビル
所 在 地	北海道千歳市美々987-22
施 主	新千歳空港ターミナルビルディング株式会社
設 計	清水建設株式会社一級建築士事務所
施 工	清水・東急・戸田・岩田地崎・橋本川島・萩原共同企業体
改 修 期 間	(全体改修)2015年3月～2018年7月 (当トイレ改修)2017年9月供用開始



男女トイレの1ヶ所には、パウチ・しごん洗浄水栓付背もたれを設置したオストメイト配慮ブースを設け、多機能トイレの機能分散を図っている。



多機能トイレは便器や手洗器、簡易ベッドに干渉せずに車いすが回転できるよう3000mm × 2700mmのサイズを確保している。

<改修の経緯>	
新千歳空港国内線旅客ターミナルビルでは1992(平成4)年の供用開始以来、新規航空会社の参入や格安航空会社(LCC)の就航により就航便数・旅客数が増加。近年ではさらなるセキュリティの強化や航空会社における多様化する旅客サービスへの対応なども求められることから、平成26年度より施設の安全性と利便性の向上を目的として施設整備工事を実施、航空会社の出発カウンターや搭乗待合室の拡充、通路の整備によるセキュリティの強化、トイレや授乳室の整備によるバリアフリー化対応を進めている。	
<水まわりの特長>	
国際線ターミナルビル建設時にワーキングチームを組んで検討したユニバーサルデザインの考え方を基準にして、さまざまな人への配慮を取り入れた。スーツケースなど大きな荷物を持って大便器ブースを利用する人の配慮として、ブースサイズは幅1200mm、奥行き2000mmを確保。お子様連れ利用者への配慮として、女性トイレだけではなく、男性トイレにもおむつ替えのためのベビーシートを設置している。また、改修前に一部の大便器ブースに設置されていた和式便器は、敬遠する人が多く混雑の原因になっていたことから、すべて洋式便器に変更した。	